

国語 (1)

解答番号

1

36

I

次の文章を読み、後の問い(問一～問十)に答えよ。(50点)

山本七平(一九二一～九一)といえ^aば、イザヤ・ベンダサン名義で発表された「日本人とユダヤ人」や『空気』の研究などで知られた評論家である。戦時中のカコク^aな軍隊経験をもつ山本にとって、あの無謀な戦争に日本を駆り立てたものは何だったのか。その問いが評論活動の原点であった。

もっとも、戦争体験を自らの思想の基軸に据えたといえ^aば、丸山真男らのいわゆる進歩派知識人の名前が思いうかぶ。彼らは、日本の戦争原因を、天皇制国家という日本社会の後進性に求め、それゆえ、欧米を手本とした民主的な市民社会の建設に戦後日本の希望を託した。これに対して、山本は、天皇主権を排して、戦後の民主的な社会になっても問題は何も解決しないという。

この両者の違いをもたらしたものは何か。実は、山本にとって真の問題は、ただ戦争体験というだけではなく、戦前と戦後で果たして何かが変わったのか、という点にあった。端的にいえば、戦前には「天皇陛下万歳、鬼畜米英」を叫んでいた日本人が、一九四五年八月十五日を境に「マッカーサー万歳、民主主義万歳」へと豹変^{ひょうへん}したのはなぜか、ということである。

この豹変を「主体性の欠如」や「責任観念の欠落」や「状況追従的」といった日本人の後進国的な性格に帰することはできようが、山本は少し違う論点を引き出した。それは次のようなものである。

日本の庶民大衆は、戦前にあって、実は「天皇陛下万歳」も「鬼畜米英」も本心から信じていたわけではない。ただ、「天

皇陛下」が絶対的存在としてまつり上げられ、それを批判することができなくなってしまった。

とすれば、戦後はどうか。今度は「民主主義」が絶対化された。そして戦後民主主義を批判することができなくなった。占領中には「マッカーサー」が絶対化された。

マッカーサーや戦後民主主義や個人の自由などをまとめれば「アメリカ」ということになる。戦前は「天皇」があらゆる価値の源泉であったのに対して、戦後の価値基準は「アメリカ」に変わったわけである。しかし、その構造は何ひとつ変わらない。まつり上げるものは変わったが、人々は慣習や常識に従って日々の生活を繰り返しているだけである。

にもかかわらず、「天皇」や「民主主義」や「アメリカ」がひとたび絶対化されてしまうと、それを批判できないような「空気」ができてしまう。そして、そこにできあがる「空気」、**ア** ある種的情緒的な雰囲気¹が人々を支配するのである。

しかも面白いことに、ほとんどの者は、「天皇とは何か」「民主主義とは何か」「アメリカとは何か」など、まともに考えたこともないにもかかわらず、あたかも自明の真理でもあるかのように、それを担ぎ出すのである。皆で「空気」を作り出し、その「空気」に従うのである。担ぎ出すものは、時代によって違い、状況によって変わる。**イ**、何かを担ぎ出すことで社会はまとまる。

担がれるものは、いわば「神」の代理である。**ウ**、「天皇陛下万歳」を唱える人々が実は、「現人神^{あらひとがみ}」など真に

は信じていなかったのと同様、戦後の「民主主義万歳」にしても、人々はそれを真に信じているわけではない。ただ、「神」の代理を果たす何かを必要とする。それが価値の基準になり、日本社会に秩序を与え、**エ**、日本の向かうべき方向を指示するのである。

さて、この「神」の代わりになるもの、それは、日本の場合、概して海ⁱの向こうからくる「高度な普遍文明」であった。時にふれ、また**A**、日本は、海外の普遍文明を必要とした。古く言えば卑弥呼の時代、倭^わの五王の時代から推古天皇の遣隋使^{づいし}、さらには奈良、平安時代の遣唐使へと続く。かくて、中国という「海外の高度な文明」を取り入れた人々が日本の支配

層をなし、中国の権威を背景に、日本社会の秩序と方向を与えてきたのである。

その際、日本という周辺国が高度な普遍文明に対抗するには、普遍文明に学びつつも、それを「日本化」する必要があった。だから、古代日本は、中国から多様な文物だけではなく、仏教や律令制度などを取り入れたが、決して中国皇帝に臣従したわけではない。

その意味で、天皇制度を確立し、その根拠となる「記紀」の編纂を命じた天武天皇こそは、「日本」を正式に立ち上げたことになる。中国に学びつつも日本独特の天皇制国家がここに整備される。

では鎖国によって独自の文化を育てた徳川幕府はどうであろうか。徳川幕府は、身分社会や君臣関係を維持するためにひとつのイデオロギーを必要としたが、それは中国から導入された儒学、とりわけ朱子学であった。朱子学は、忠による君臣関係にもとづく社会秩序を絶対視する。それが幕藩体制の維持には都合がよかった。

しかしここに奇妙なことが生じた。中国では国の統治者は天子であり、天子は天命を受けて国を治める。天命を受けることが統治の正統性を与える。これを日本に当てはめると、日本の正統な統治者は幕府ではなく万世一系の天皇なのである。幕府はあくまで天皇の権威によって統治を委任されているに過ぎない。

そしてそのことが、幕末の尊王攘夷運動の一因となり、討幕へといたる。とすれば、明治の天皇主権国家をもたらしたのは、実は、江戸時代の朱子学という中国の学問の「日本化」であった、ということもできよう（山本七平の「現人神の創作者たち」参照）。

明治時代とは、いうまでもなく日本近代化の時代であり、近代化の手本は西洋であった。中国に代わって、西洋こそが高度な普遍文明となつてたち現れ、あらゆる分野で、日本は、実に勤勉に西洋を学び「日本化」することで近代へと船出した。日本にとって、「西洋」は価値の源泉となる。明治の天皇制国家とは、日本の「現人神」を西洋の「立憲君主」に見立てるといふいささか無謀な構想によって成立したものであった。

では、天皇主権国家が解体した戦後はどうであろうか。日本という国家の基本的な秩序を与え、その方向を示したのは「ア

アメリカ」であった。現人神である「天皇」に代わって民主主義の「アメリカ」が疑似主権者になった。「アメリカ」こそが高度な普遍文明の象徴であり、日本はもっぱらこの普遍文明に学び、それを「日本化」することで、日本のあるべき方向を決定できた。

それでは、今日、われわれは、何を価値の基準にしているのだろうか。冷戦以降、世界はいわゆるグローバル化の時代となり、われわれは「グローバルな世界」をとりあえずの価値基準にした。「アメリカ」が「グローバルな世界」へと変形されたといってもよい。それこそが普遍文明であり、日本はその周辺国家なのである。

こうなると「いま世界では……」という国際通の専門家やジャーナリズムが世論を動かし、「世界の^bチヨウリュウに乗り遅れるな」という **B** が「空気」を作り出す。かくてわれわれは、AI、量子技術、宇宙開発、生命科学、環境技術などのイノベーション競争に飛び込み、グローバル資本主義のもたらす激しい国家間競争のみ込まれることとなった。

しかし、「グローバルな世界文明」はいくらも上げられても、誰もそれを実感として捉えることはできない。確かに、今日、われわれは世界中の情報にさらされ、日々の生活品は世界中のサプライチェーンによってもたらされている。だが、われわれの日常の経験のもたらす実感は、決して「グローバルな世界文明」と直結したものではない。

端的にいえば、庶民大衆は「グローバルな世界」なるものを担ぎ上げてはいるものの、「天皇」や「民主主義」と同様、誰もそれを信じてはいないのである。おまけにその「グローバルな世界文明」は、いまやあちこちにはころびを見せ、機能不全に陥っている。

おそらく、日本の歴史上、これほど、国をまとめ、国の進むべき方向を指し示す **X** 時代は稀^{まれ}であろう。

「海外の高度な普遍文明」を指標とし、それを学び「日本化」することで国の秩序と価値を維持してきた日本のやり方がほとんど意味を失ってしまった。大きく言えば、それこそが、今日の日本にあって、政治家は方向感覚を失い、官僚は影響力を失い、知識人やジャーナリズムは確かな言葉を失った理由であろう。

だが考えてみれば、それはまた日本の長い歴史を貫いてきた「海外の先進文明に追いつく」という不安な心理的前提からの

解放をも意味しているだろう。「中国」も「西洋」も「アメリカ」も、そして「グローバルな世界」もはや価値基準とはならないのである。「追いつくべき先」などどこにもない。そうであれば、⁴今日こそ改めて、われわれはわれわれの手で、自前の日本の将来像を描くほかならう。

(佐伯啓思「日本の方向を決めるのは」による)

注 マッカーサー——ダグラス・マッカーサー(一八八〇—一九六四年)。アメリカの軍人。一九四五年から一九五二年までGHQ(連合国最高司令官総司令部。第二次世界大戦後、日本占領のため東京に設置された連合国の中央管理機構)の最高司令官。

問一 文中の二重傍線部（a・b）のカタカナを漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

<p style="text-align: center;">a カコク</p> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">1</div> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">⑤</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">④</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">③</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">②</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">看力できない所業</td> <td style="text-align: center;">舌力を招く発言</td> <td style="text-align: center;">金額の多力は問わない</td> <td style="text-align: center;">カ齢による体力の衰え</td> <td style="text-align: center;">カ重制限のある橋</td> </tr> </table>	⑤	④	③	②	①	看力できない所業	舌力を招く発言	金額の多力は問わない	カ齢による体力の衰え	カ重制限のある橋	<p style="text-align: center;">b チヨウリュウ</p> <div style="border: 1px solid black; width: 20px; height: 20px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center; margin-bottom: 5px;">2</div> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%; text-align: center;">⑤</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">④</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">③</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">②</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">①</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">断チヨウの思い</td> <td style="text-align: center;">頬を紅チヨウさせる</td> <td style="text-align: center;">改まった口チヨウ</td> <td style="text-align: center;">相手をチヨウ発する</td> <td style="text-align: center;">得意の絶チヨウ</td> </tr> </table>	⑤	④	③	②	①	断チヨウの思い	頬を紅チヨウさせる	改まった口チヨウ	相手をチヨウ発する	得意の絶チヨウ
⑤	④	③	②	①																	
看力できない所業	舌力を招く発言	金額の多力は問わない	カ齢による体力の衰え	カ重制限のある橋																	
⑤	④	③	②	①																	
断チヨウの思い	頬を紅チヨウさせる	改まった口チヨウ	相手をチヨウ発する	得意の絶チヨウ																	

問二 文中の空欄（ア～エ）を補うのに最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し

- 選んではならない。ア 3、イ 4、ウ 5、エ 6
- | | | | |
|-------|--------|-------|--------|
| ① しかし | ② もしや | ③ だから | ④ たとえ |
| ⑤ つまり | ⑥ ときには | ⑦ ところ | ⑧ なぜなら |
| ⑨ また | | | |

問三 文中の波線部 (i) iii) の意味として最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

i 概して

7

- ① 予想どおり
- ② 古くから
- ③ 全体的には
- ④ 大挙して
- ⑤ 正確に言えば

ii イデオロギー

8

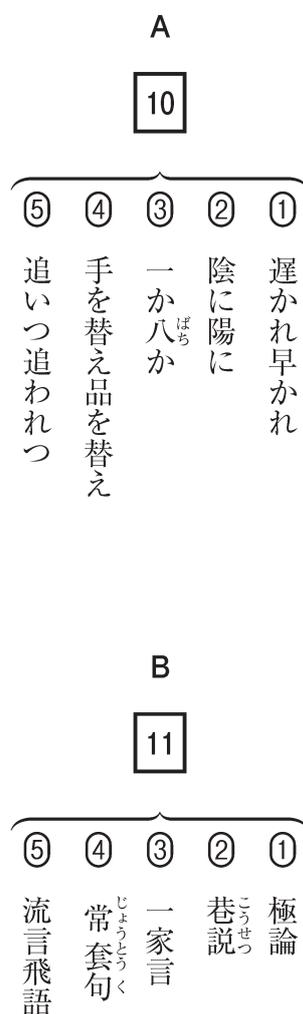
- ① 社会生活に必要な個人の内面的な規範
- ② 政治や社会に関する基本的な考え方
- ③ 国の活動を戦略的に進めていくための原資
- ④ 文化の中で一定の意味を持つ約束事
- ⑤ 被支配層からの反発を和らげる言説

iii 見立てる

9

- ① あるものから、それによく似た別のものを作り出す
- ② あるものを、共通点のある別のものとして扱う
- ③ あるものを、より良い他のものと入れ替える
- ④ あるものから、別のものと共通する点を取り払う
- ⑤ あるものを、他よりも優れたものとして区別する

問四 文中の空欄（A・B）を補うのに最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。



問五 文中の傍線部1（面白いことに）とあるが、どういう点を「面白い」と言っているのか。その説明として最も適当なものを選び、次の選択肢の中から選べ。 12

- ① 自分たちの生活をこれまで通りに営むため人々が導入した価値基準であるのに、どういう影響をもたらすかまで深く考えずに崇め続けたことにより、逆にその価値基準に生活を制限されるという愚かさがある点。
- ② 価値基準が大きく入れ替えられても、それについて人々が深く考えていなかったからこそ、実は時代の変化をはじめからわかってきたかのような顔ができてうまくやり過ごすことになったという痛快さがある点。
- ③ 自分たちの生活を方向付ける価値基準が変わったのにもかかわらず、人々はそうなったことについてまったく知らずともせず、前に崇めていた価値基準に基づいたままの生活を送っているといういい加減さがある点。
- ④ ことあるごとに高度な普遍文明を学んできた蓄積があるため、時代の転換によって突然もたらされた新しい価値基準について深く考える時間がなかったとしても、人々にはそれに対応できるだけのしなやかさがある点。
- ⑤ 自分たちに安定をもたらす将来へと導いていく重要な価値基準ならば、それについて深く考えてもいいはずなのに、人々はわかったような気になっているだけで実はよく知らないまま崇めているというちぐはぐさがある点。

問六 文中の傍線部2〈明治の天皇主権国家をもたらしたものは、実は、江戸時代の朱子学という中国の学問の「日本化」であった、ということもできよう〉とあるが、なぜそのように言えるのか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

13

① 江戸時代における朱子学は、主君である天皇と臣下である徳川幕府との関係は不変であるとする事で幕府という日本独自の存在を正当化した。時代が進むにつれて幕府が政治を遂行する力を失っていったため、幕府に代わる新たな体制を探していたから。

② 徳川幕府の統治の中で大きな役割を果たしていた朱子学からすると、天皇の権威を背景にしてはじめて政治に携われる幕府の体制を強化していくには天皇の権威をさらに高める必要がある。それが相対的に幕府の存在価値を下落させてしまうことになったから。

③ 江戸時代における朱子学は、臣下の幕府に主君の天皇が政治を委ねる日本独自の状況を問題視していなかったが、徳川幕府が力を強化し、いずれ天皇に取って代わるということになれば、社会の秩序維持を絶対視する朱子学には許容できない状況となるから。

④ 徳川幕府が自らの体制を強化するため導入した朱子学だが、天皇の下位にある幕府が政治を執り続ける状況は、君臣の秩序を社会の根幹に置く朱子学とは本質的に相容れず、その思想を貫徹して中国の天子を日本に適用するならば統治者は天皇になるほかないから。

⑤ 天命を受けて国を統治する中国の天子を日本の天皇に置き換えることにより、江戸時代の朱子学が天皇側に追従しようとする姿勢を見せはじめたことで、秩序維持の面において協力し合ってきた徳川幕府側と朱子学側との間に溝が広がっていったから。

問七 文中の傍線部3へわれわれの日常の経験のもたらす実感は、決して「グローバルな世界文明」と直結したものではないとあるが、筆者がそのような言うのはなぜか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。 14

① 「グローバルな世界」は激しい競争を伴う価値基準だが、これまでの歴史の中で日本人が経験してこなかったものであり、そこから生じる心理的不安を払拭しようとして従来通りの変わらない日常生活によりどこを求めたから。

② 日本人は日常生活において「グローバルな世界文明」によってもたらされた品々の恩恵を受けてはいるが、そうした品々を流通させるのに必要な資本の動きは、庶民大衆が目にしようとしても簡単にできるものではないから。

③ 日本では歴史を通して、外来の価値基準が社会をまとめるために機能しており、「グローバルな世界」もその一つだが、庶民大衆はそうした価値基準を信じておらず、日常生活では社会に定着している慣習や常識に従っているから。

④ 日本の庶民大衆は、外来の価値基準を信じていない一方で批判もしない傾向にあったが、導入が急激だった「グローバルな世界」に至っては、その傾向に拍車がかかることになり、無関心と言える段階にまで達したから。

⑤ 日本が社会維持のため取り入れた価値基準が海外由来であることは歴史を通し変わらなかったが、従来のものが中国やアメリカなど具体的な国や地域を実感できたのに比べ、「グローバルな世界文明」は実体がつかみにくいものだから。

問八 文中の空欄(X)を補うのに最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

15

① 価値基準が要らなくなった ② 価値基準を海外に求めなくなった

③ 価値基準に縛られている ④ 価値基準を世論から求められている

⑤ 価値基準が見えなくなった

問九 文中の傍線部4（今日こそ改めて、われわれはわれわれの手で、自前の日本の将来像を描くほかならう）とあるが、筆者は「今日」の状況をどのように捉えているか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。 16

- ① 手本を海外に求めて価値基準を取り入れても、従来と同じく深く考えずに担ぎ出すことを繰り返すだけだろうから、むしろ追いつくべき手本がなくなったことで自分たちの将来を考えることのできる機会が到来したと捉えている。
- ② 政治や社会の混乱を収めるような将来の展望が必要なのに、従来の価値基準にこだわって有効な手立てを示すことができなくなっていることから、その点を改めるよう求めるさらに強い世論が必要な時期が到来したと捉えている。
- ③ 「グローバルな世界文明」にのみ込まれたことで、手本にして追いつくような特定の地域は存在しなくなったが、それだけに今後の世界の中で自分たちの位置を明確にする価値基準を示すことができる好機が到来したと捉えている。
- ④ 日本の迷走状態が、かつては常に存在した「追いつくべき先」を見失った後に生じたことから、何よりも必要なのは新しい「追いつくべき先」を見いだすことであり、そのために従来以上に深く考えるべき段階が到来したと捉えている。
- ⑤ 海外の高度な普遍文明が破綻したことで、それを手本として目指さなくてもよくなり、結果として社会の秩序の維持や進むべき方向について考える必要性を日本人が失ってしまいかねない危機が到来したと捉えている。

問十 本文の内容と合致するものを二つ、次の選択肢の中から選べ。ただし、解答の順序は問わない。

17

18

- ① 戦前の現人神としての「天皇」も戦後の「民主主義」も、日本人が本気で信じていなかった点において同じである。
- ② 自分たちに進む道を示し秩序を与えてくれる「神」のような存在であっても、日本人はそれを絶対化しなかった。
- ③ 日本の後進性は、古代中国を「高度な普遍文明」として手本にしたことに帰すと丸山真男らの進歩派知識人は考えた。
- ④ 山本七平にとって自らの戦争体験は、古代から大きく変貌していった日本の構造を見いだす契機となった。
- ⑤ 庶民大衆が天皇主権国家を信じていなかった以上、近代になる前から市民社会は成立していたと言える。
- ⑥ 鎖国政策を行っていた徳川幕府が統治の道具に用いたのは、中国からもたらされた儒学であった。

II

次の文章は、宇宙物理学者・池内了によるエッセイである。これを読み、後の問い（問一～問十一）に答えよ。（50点）

私たちは医療と縁を切って生きることができない。病気になれば医師にすが頼らなければならないし、できるなら安楽に死にたいと思っっているのが通例だろう。

しかし、今日本の医療体制は揺らいでいる。激務の産婦人科を希望する医師が激減して都会以外では（都会でも？）子どもが産めなくなってしまった。少子化と激務で小児科医も減少している。特定分野の医師不足がaジョウタイ化しつつあるのだ。また、健康保険法の改正で長期間の入院やリハビリ治療が困難になってしまった。ゆっくりした入院治療が不可能な雲行きなのである。さらに、医療事故が多発し、病院でウイルスに感染する事例も頻発していて、病院の管理体制も問題になっている。他方では、生殖医療や臓器移植で学会の倫理規定を破る医師が輩出しており、医の在りようについても大きな揺らぎが生じている。何らかの形で日本の医療体制を抜本的に変えないと、1「医の格差」も増大していくことは確実である。

そのような状況が背後にあるためか、大学も医療倫理や生命倫理について学生に教えるようになっていく。医師が **A** を握って家父長的な権力を振るっていた時代から、医師と医療チームと患者が（インフォームド・コンセントを基礎とする）対等な関係を結ぶことが当然とされるようになったためでもある。

といっても、医学者たちは忙しく、医療倫理や生命倫理について本格的に勉強する暇もない。ヒポクラテスの誓いから始まる医療倫理の歴史は膨大にあり、簡単に講義するというわけにはいかないのだ。そこで私のような者にお鉢が回ってくる。科学と社会の関係についてアレコレ議論しているのだから、医療についても何か話せるだろうと（過大に）期待してのことだ。私も **B** ことにして、もう三年もN大学の医学部に非常勤で講義に出かけている。以下で、私の講義内容を紹介することにしよう。

私が講義の冒頭で述べることは、2 医師は科学者であり、同時に技術者でもあるべき、ということである。当たり前のことだ

が、あえて医療も科学・技術の一つであることを意識させ、その両面に関係するという意味で特別な職種であることを強調するのだ。科学は原理や法則を求めて **C** を追究し、技術は応用・開発を目指して **D** を相手にする。あるいは、科学は単純系（理想状態）で考えるが、技術は複雑系（現実）を扱っている。そして、科学は人間と独立した抽象化を目指し、技術は人間と密着した具体物に終始する。そのように表現すれば、医療はこの両面を兼ね備えていなければならないことがわかるだろう。

具体的に言えば、医師の最大の目標は患者の病気を治療することだが、その原因を徹底的に調べて因果関係を明らかにする科学的な役割と、原因が何であれ病気が治せて健康体に戻ればよいとする技術者の役割、の双方がある。むしろ、医学の分野には基礎医学（科学的）と臨床医学（技術者の）があり、それぞれ異なった役割を果たしているが、患者の立場になってみれば双方を期待している。病気を治してもらうために医師の技術に賭けるのだが、**A** その原因を知って納得したいという思いがあるからだ。逆に言えば、余りに科学的になって生身の人間を見ないのも困るし、技術者に終始して当面の処置をするだけでは不安になってしまう。両面からの示唆が欲しいのだ。

医師を技術者というのは失礼かもしれない。しかし、ある病気（現象）を前にして、病因（原理）はわからなくとも勘と経験で得られた診断（法則）を適用して、「**E**」である点では医療と技術は共通しているのだ。ワットは熱力学を知らなくても蒸気機関を発明することができた。医師はとりあえず病気を治せば良いのである。**I**、それだけで留まっていはいけない。医療の現場が経済論理に巻き込まれて病気の治癒（技術）だけに集中してしまったら医学の進歩はなくなってしまうだろう。科学者の精神を決して忘れてはならないのだ。

³ その上で、医療の特徴を述べる。（技術と共通した側面が多いことに気づかれるだろう。）

まず、第一に医療は人間という「複雑系」を相手にしていることだ。ファジーで気まぐれで言うことを聞かず悪戯いたずらをしたがる患者を総合的に捉えなければ成功しない。**ウ**、医師と検査技師と看護師と薬剤師と精神のケアをする人、それら医療行為に関係する人全体の葛藤や意見の対立を乗り越えチームとして医療計画を立てねばならない。それと関係して、現場が決

定的に重要で一般論では済まないという側面がある。どのような医療の場合か——大学病院、大病院、開業医、診療所、個人医——や患者個々人の特性——体質や気質、生活環境、人間関係など——も考慮しなければならない。人間に関わる事象は複雑系だから一筋縄で済まず、ⁱⁱ当然倫理的対応も必要なのである。

第二は、医師は三重の契約者であるということだ。被雇用者として雇用主と契約書を交わし、患者とは医師として暗黙の契約をしており、医師会や学会や政府や一般公衆に対して社会契約を結んでいる。それぞれの契約に依りて、雇用主の意向を尊重する倫理、患者との対等な関係を結ぶ倫理、公衆に対して誠実に振舞う倫理がある。問題はこれら従うべき倫理規範が矛盾する場合であり、そのいずれを最重要視するかは医師個人に任されている。水俣病にソウグウした医師を思い浮かべてみよう。私は、どうであるべきと言う立場にないが、どうあつて欲しいかの願いはある。

第三番目は、医療という行為は「妥協」の上に成り立っているということだ。一〇〇パーセント完全で完璧な医療はあり得ない。まず、患者が払えるお金や掛ける時間の制約がある。万全でない医療環境の制限もある。さらに、薬や治療法にも限界がある。(副作用があつたり、別の器官に負担が行き過ぎたりする。)それらの諸条件を勘案して医療方針を考え最善を尽くすことを目指すが、言い方を変えれば医師はどこで妥協するべきかの選択をしなければならないということだ。妥協点を間違えば一切が無に帰してしまう。これは技術上の問題であるように見えるが、何を優先するかについての倫理問題とも深く絡んでいることも確かだろう。

四つ目として、医療行為は、あえて人体実験とは言わないまでも、人体を介した社会的実験であるということ⁴を強調したい。人体の機微についてすべて知っているわけではなく部分的な知の下での医療であること、結果が不確定であること(個々人の差違が大きい)、対照実験ができないこと(全く同一の患者はいない)、人間が相手であること(患者の選択も重視する必要がある)、というさまざまな側面を考慮しなければならない。つまり、それぞれの患者について異なった実験を行っているのと同様なのである。その意味で、どの患者に対しても初心に戻った倫理的態度が求められているのだ。

以上の事柄は、医師なら誰でもが知っていることなのだが、特に若い医学生に具体的に語りかけることが大事であると思つ

ている。医療目的、医療現場、医療行為、そのいずれにも自らの倫理と整合的な自分を見つけないからだ。世の中にはさまざまなプロ（専門家）がいるが、医療者こそ真のプロフェッションと言えるだろう。そのことは、プロフェッションが一般の職業（オキュペーション）と異なる点として、

- (一) 特殊で専門的な知識を体得している（「制度化」による特別な教育と訓練）、
- (二) 他の集団から干渉や指示を受けることなく、サービスの独占権と自治を獲得している（「自律性」の保証）、
- (三) 独自の倫理規範（職務規程）に従い、それによって社会的に高い評価を得ている（「倫理性」を担保とした社会との互恵関係）、

の三点であることからわかるだろう。そもそもプロフェッションとは、「神によって選ばれた人々が、苦しんでいる人々を助けるという神との約束を受け入れ実行を誓約する」という意味で、聖職者、法曹家、そして医師がプロフェッションとして認められていた。神の「召命」を受けた特別な存在であり、それだけの社会的地位も保証されたのだ。

逆に言えば、社会から特権を与えられているが故に、専門家支配の危険性があることにもなる。プロフェッションとクライアントとの間の非対称はレッキとして存在するからだ。医師と患者は対等な関係といいつつ、医療の知識に圧倒的な差があり、治療する者と治療される者の間には越えがたいギャップが存在する。その溝を少しでも小さくするのが倫理なのである。⁵ そんなことを講義しているが、案外医学生には好評である。普通の医学者なら恥ずかしくて言い難いことを、臆面もなく平気でしゃべっているためかもしれない。

（池内了『科学の落とし穴―ウソではないがホントでもない―』による）

注 インフォームド・コンセント——治療法などについて、医師から十分な説明を受けた上で患者が正しく理解し納得して、同意すること。

ヒポクラテスの誓い——医師の職業倫理について書かれた宣誓文。古代ギリシアの医師ヒポクラテスの見解に基づくといわれ、世界中の西洋医学教育において長く教えられてきている。

問一 文中の二重傍線部 (a・b) のカタカナを漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

a ジョウタイ化

- 19
- ① 私ジョウを捨てて事にあたる
 - ② 信ジョウに基づいて行動する
 - ③ 土地をジョウ渡する
 - ④ ジョウ長なスピーチが続く
 - ⑤ 災害に備えて水をジョウ備する

b ソウグウ

- 20
- ① 決定には時期尚ソウだ
 - ② 雪山でソウ難する
 - ③ ソウ行会を開催する
 - ④ 在庫を一ソウする
 - ⑤ ソウ業時間を短縮する

問二 文中の波線部 i (お鉢が回ってくる)、ii (一筋縄で済まず)、iii (臆面もなく) のここでの意味として最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

i 21

- ① 多くの中から選び出されること
- ② 後始末をさせられること
- ③ 他の人の代わりに引き受けること
- ④ 絶好の機会が訪れること
- ⑤ 出番がやってくる

ii 22

- ① 速やかに解決することができないこと
- ② ひたむきな思いだけでは乗り越えられないこと
- ③ 普通のやり方ではうまく処理できないこと
- ④ 解明のためには多くの時間を要すること
- ⑤ いくつかの方法を組み合わせる必要があること

iii 23

- ① 意気地が足りないこと
- ② 遠慮する様子がないこと
- ③ いいかげんな態度をとること
- ④ 本心を隠さないこと
- ⑤ 礼儀をわきまえていないこと

問三 文中の空欄（ア～ウ）を補うのに最も適当なものを、それぞれ次の選択肢の中から選べ。ただし、同じものを繰り返し

選んではならない。ア **24**、イ **25**、ウ **26**

- ① あるいは
- ② なぜなら
- ③ やはり
- ④ つまり
- ⑤ もしも
- ⑥ ところで
- ⑦ とはいえ

問四 文中の空欄（A・B）を補うのに最も適当なものを、次のそれぞれの選択肢の中から選べ。

A **27**

① 既得権

② 主導権

③ 黙秘権

④ 生存権

⑤ 拒否権

B **28**

① 口火を切る

② 煙けむに巻く

③ 凶に乗る

④ 油を売る

⑤ 受けて立つ

問五 文中の空欄（C・D）を補うのに最も適当な組み合わせを、次の選択肢の中から選べ。

29

① C 結果

— D 原因

② C 秩序

— D 混乱

③ C 普遍

— D 特殊

④ C 内容

— D 形式

⑤ C 部分

— D 全体

問六 文中の傍線部1〔「医の格差」も増大していくことは確実である〕とあるが、筆者はなぜ「医の格差」が増大するとい
うのか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

30

① 医療体制の崩壊は、よりよい待遇を求めて優れた医師が日本から海外に流出してしまうことをもたらし、結局は患者側にしわ寄せがくるものであるから。

② 医療体制の揺らぎは新しいシステムの構築を促し、やがて競争社会にふさわしい医療体制が出来上がるであろうが、それは経済的弱者にとっては厳しい状況になるものであることが予想されるから。

③ 医療体制が日々変更されることによって、どれだけ素早く自己に必要な情報を手に入れることができるかということが、質のいい治療を受けることができるかできないかの分かれ目になるから。

④ 医療体制をめぐるさまざまな問題は、均質な医療をあまねく提供することを困難にするものであり、それはいずれ患者が受ける医療の問題に直結することになるから。

⑤ 医師の倫理観に揺れが生じることによって日本の医療体制の抜本的改革が著しく遅れ、経済格差が広がった一般社会と同様に、医学界にもあらゆる面で格差が生じることになるから。

問七 文中の傍線部2〈医師は科学者であり、同時に技術者でもあるべき、ということである〉とあるが、筆者がどのように考える理由に合致しないものを、次の選択肢の中から選べ。

31

- ① 目の前の患者の病気を治療することに没頭しているだけでは、病気の根本的な原因を解明することはできないから。
- ② 患者は病気の治療を求めるが、それと同時に、病気になった原因についても知りたいという欲求を持っているから。
- ③ 原因はわからなくても病気を治療することは可能かもしれないが、医学の進歩のためには病気を科学的に追究することが必要だから。

④ 医療は病気という現象を扱うが、だからといって現象の解決だけに注力しては、患者の期待に応えることにはならず、十分な治療とはいえないから。

⑤ 病気を治療する技術を磨くことは医師にとって重要なことであって、その技術の鍛錬のためには、科学者として臨床経験を積むことが必要だから。

問八 文中の空欄(E)を補うのに最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

32

- ① 果報は寝て待つもの
- ② 大山鳴動して鼠ねずみ一匹
- ③ 結果良ければすべて良し
- ④ 人事は尽くした上で天命を待つ
- ⑤ 弘法こうぼうは筆を選ばない

問九 文中の傍線部3（その上で、医療の特徴を述べる）とあるが、ここに述べられている医師のあるべき態度としてあては

まらないものを二つ、次の選択肢の中から選べ。ただし、解答の順序は問わない。

33

34

- ① 勤務医として雇用主の方針を重んじた振る舞いをする事。
- ② さまざまな制約がある中で、最適な解決策を見出すために努力すること。
- ③ 患者それぞれの事情を考慮した上で、常に真実を伝えることを心がけること。
- ④ 最善の結果をもたらすと医師が確信したのであれば、迷わずその方法を選択すること。
- ⑤ 医療行為は人間を相手にしたものであるということを意識し、患者を尊重する姿勢を忘れないこと。
- ⑥ 同じ病気であったとしても人それぞれに異なる要素があるのだから、常に新たな気持ちで向き合うこと。

問十 文中の傍線部4（以上の事柄は、医師なら誰でもが知っていることなのだが、特に若い医学生に具体的に語りかけることが大事であると思っている）とあるが、筆者はなぜ「特に若い医学生に具体的に語りかけることが大事」だというのか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

35

- ① 医療における倫理の問題を学んでおくことで、若い医学生が将来医療の場において倫理的判断が必要になった時、適切な選択ができるようになるから。
- ② ベテランの医師たちは自明のこととして倫理教育には見向きもしないが、若い医学生は経験が浅いため、筆者の倫理教育にも素直に耳を傾けてくれるから。
- ③ 若い医学生は早くから特権を与えられることで倫理観に欠けている場合が多く、そのまま医療現場に送り出してしまふとさまざまな問題を起すものであるから。
- ④ 若い医学生はさまざまな知識を教科書から身につけているが、医療倫理は日々変化するものであり、最新の情報を提供して常に倫理観をアップデートする必要があるから。
- ⑤ 医療界と一般社会にはさまざまな面で違いがあり、医療の世界の倫理を学んでおかないと、若い医学生たちはいずれその倫理観の違いに苦しむことになるから。

問十一 文中の傍線部5（その溝を少しでも小さくするのが倫理なのである）とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の選択肢の中から選べ。

36

- ① プロフェッションである医療者とオキュペーションがほとんどである患者は相いれないものであるが、互いがわかりあうためには、双方が倫理教育を受ける必要があるということ。
- ② プロフェッションである医療者がなすことを患者が完璧に理解することには困難が伴うが、医師が十分な倫理を身につけることで、患者との間に信頼関係を築くことができるということ。
- ③ 医療者はプロフェッションとして社会的に特権階級にあるが、クライアント側にも専門家が存在しており、それぞれの世界の倫理をすり合わせることで、良好な関係が形成されるということ。
- ④ 医療者はプロフェッションであるので自律性が保証されているが、倫理を身につけることで、方向性に迷いが生じた時に進むべき道を見出すことができるようになるということ。
- ⑤ プロフェッションである医療者は社会的に高い評価を得ているが、それはクライアントである患者が医療者の倫理性を認めているからこそ成立しているのだということ。